

悪天候と山

高校時代は自己流で山に登っていたが、大学進学と同時に本格的な登山の修行をすべく、社会人団体である昭登山岳会に入会した。様々な登山を勉強させて貰ったが、全天候型登山を教えてくれたのも昭登山岳会であった。豪雨だろうと吹雪だろうと、ベンチレーターからちらっと外を盗み見ただけで安易に停滞を決めるなんてとんでもない、というのである。一度テントの外に出て、行動できる天気か否か体でチェックしろというのである。自分がどこまでの天気なら行動できるのか、自分の限界を自分で確認しろというのである。素晴らしい教えであった。今日、ぼくが安心・安全に楽しく登山を続けられているのは、昭登山岳会のおかげと感謝している。自分の限界はまだ確認できないでいるが、自分の限界を常に考える姿勢を学ぶことはできた。

悪天候は、山を学ぶよき教材であると知ったぼくは、ぼくが学んで来たように後輩たちにも学んで貰いたいと思い、雨天決行を旨として登山教室を実施してきた。もちろん個人山行も。

昭登山岳会の修業時代、谷川岳幽ノ沢中央ルンゼを計画したとき。台風が発生し、週末は関東から越後に抜けるという。土曜日の夜の上野のプラットホームは大雨だった。他に登山者はいない。Sさん、Yさん、ぼくの三人はガラガラの夜行列車に乗り込んだ。到着した土合駅は台風一過、幽ノ沢は貸し切り、青い空の下、中央ルンゼのクライミングを心ゆくまで楽しむことができた。

池袋のサンシャインシティ文化センターで、中高年と女性のための登山入門講座を開講したのは1983年のこと。ぼくは38歳で、受講生は子育てから解放された50代前半の女性が大半だった。50歳という方も一回り年上で、ぼくから見れば立派なおばさまであった。69歳になった今から振り返ってみると、皆さん若くて元気いっぱいだった。だからこそ、その教室でも雨天決行を宣言できたのだと思う。

実技教室で相模湖の南に位置する石老山の実施当日、朝から雨が降っていた。雨天決行を宣言しているとはいうものの、皆さんの足前と安心安全を考えると、状況によっては中止した方がベターな場合もある。そんなことを考えながら集合場所の相模湖駅にむかった。相模湖駅のホームに降り立つと、「先生！」と大きな声がかかった。皆さん、雨具をしっかりと着込んで、雨天決行に備えていらっしゃる。この元気と笑い声があれば、雨天決行問題なし。雨の中、楽しい石老山ハイキングになった。

また別のとき、台風近づく中、夜の上野のプラットホームは大雨だったが、平標山から谷川岳の縦走をめざして新潟行きの夜行列車に乗った。土樽駅は土砂降りの雨だった。登山中止を決めて、上りの列車に乗り込んだが、台風のため高崎駅でストップしてしまった。そんなこともあった、だから登山は面白い。